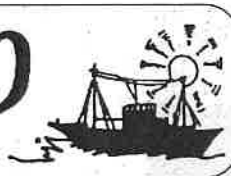


福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行
(財) 第五福竜丸平和協会
連絡所
〒136-0081 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494



第五福竜丸の平和へのねがいをたくさんの子らへ

新年おめでとうございます。
第五福竜丸展示館は昨年一〇数万の方々に来館いただきました。本年も多くの方々にお出でいただきたいと願っています。
この展示館は、水爆実験の被害を受けた日本漁船・第五福竜丸の実物を丸ごと保存している世界でも例のないミュージアムです。
昨年は、ビキニ水爆被災実験の説明パネルを一新し、マグロ漁船の側面についてのパネルを追加しました。本年は、ビキニ事件以後の核兵器廃絶への世界の動きに関するパネルを新しくするつもりです。
東京都より展示館の管理・運営を委託されている当協会は、財団法人として公益性を保持することが大切です。本年前半には協会のホームページを開設しますので、協会の行事や企画について各方面からアクセスいただくことを期待しています。
いま、学校教育では総合学習の時間、理科離れ対策などで創意工夫が求められています。全国の小・中・高校から団体見学を受ける展示館としては、「ラッセル・アインシュタイン宣言」を学んだり、「核分裂」「核融合」「臨界」「放射能」等ももう少し深く理解出来るようにビデオや書物で勉強できるスペースを作りたいと考えています。
展示館に収蔵されている資料を専門家・研究者に広く利用頂けるように、その整理、分類、目録カード化にも着手しています。
昨年、事務局が一新し、また、研修を受けたボランティアに説明員等として協力していただく体制が整いましたので、これまで以上に来館者のご要望にこたえることが出来ると思います。
ビキニ事件五〇周年、二〇〇四年三月一日を二年後に控え、記念行事の準備も本年から開始しなければなりません。
協会役員・職員一同新たな気持で業務に取り組みますので、ひきつづき皆様のご支援、ご鞭撻をお願いする所です。

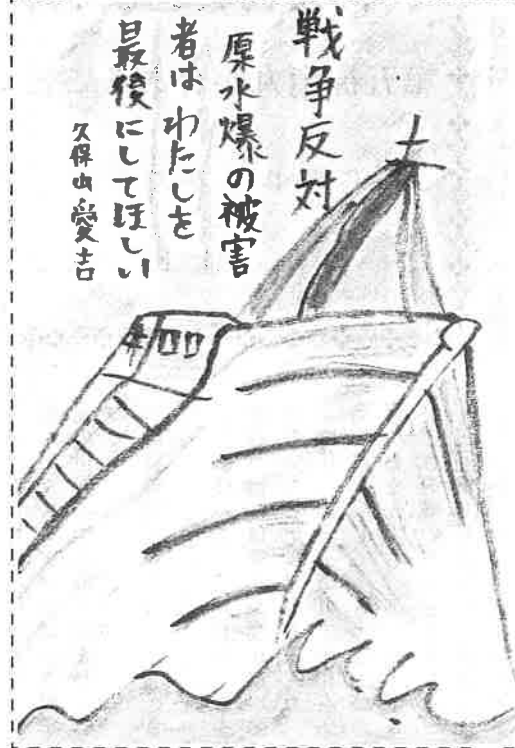
ともに創る展示館の新たなとりくみを

財団法人 第五福竜丸平和協会会長 川崎 昭一郎

二〇〇二年のお花見 平和のつどい 開催さまる

第五福竜丸から平和を発信する連絡会は二月一九日に打合せ会を開き、二〇〇二年の『お花見平和のつどい』を四月六日(土)午前一時半から展示館前の広場で開催することを決めました。このとりくみは、第五福竜丸のエンジンを東京・夢の島へ都民運動にとりくんだ市民団体や被爆者、原水

爆禁止運動の団体が集まり、また東京地婦連が展示館前の広場に植樹した八重紅大島桜の開花に合わせて開かれます。
打合せ会には、東京地婦連、東京生協連、都地消連、日本青年団、東京原水協、第五福竜丸平和協会から出席があり、昨年の経験を踏まえながら、企画の内容や準備の段取りを相談しました。
つどいでは、折り鶴コーナー、音楽、被爆者の訴え、平和を語る集り、模擬店なども企画されます。また、この四月からの公立学校週休二日制にあわせて高校生や



静岡県三島市の小学4年生の作品



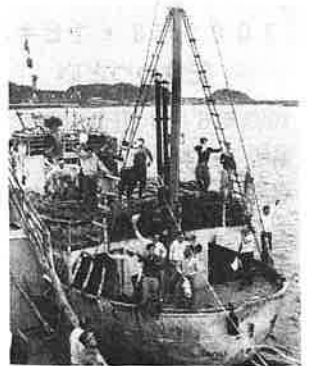
坂井さん

ビキニ事件当時、三〇代でマグロ漁船の一等航海士をされていた坂井賢司さんの長女、宮井紀子さんから平和協会に一〇万円のご寄付をいただきました。

元マグロ漁船航海士の ご遺族から平和協会に 寄付

小中学生など若い世代の参加もよびかけることを話し合いました。
エンジンへの第二回薬品塗布
また打合せ会では、第五福竜丸のエンジンへの薬品塗布について、二回目の塗布作業を二月二日の午後一時からおこなうことになりました。

坂井さんは、ビキニ事件当時に神奈川県三崎漁港のマグロ延縄漁船光栄丸の航海士としており、汚染マグロを海に投棄した経験を持つそうです。(右の写真はその後に乗り込んだ館山港所属のマグロ延縄漁船つる丸)。
坂井さんは、去る一月二日に七九歳で亡くなりましたが、生前、宮井さんに「久保山愛吉さんは本当に気の毒だった」と話されていたことを思い出し、被害を再び繰り返さないために役立ててほしいと、ご家族で展示館を訪れてくださいました。



核実験反対と

核兵器廃絶への感性を磨こう

岡本三夫

正月早々、地元広島の中新聞一面トップに「地下核実験再開の方針」という白抜きの大文字が躍った。小見出しには「米政府、議会通告へ」とあり、「二年内にネバダ州の地下核実験施設での再開を可能にしておくことが必要だ」とあった。ワシントン・ポスト紙が情報源だった。米国が地下核実験を再開すれば、中ロを始め他の核兵器保有国も米国に追随することは必至だ。

暴挙である。核兵器廃絶を追究してきた私たちの運動への挑戦



広島・子ども達の平和像

だ。私は早速「アポリジョン二〇〇〇」というグローバルな情報交換ネットワーク(ML)を使って世界中の平和活動家に警告のメールを発信した。核実験再開は断じて阻止しなければならぬ、と。反応は早かった。ポストンのジョウ・ガースンからは連帯の返信があり、カリフォルニアのジャキー・カバナーからは核実験再開の背景に関する情報提供があった。二人とも国際的には著名な専門家だ。その他、ロシアなどからの反応もあった。

しかし、なぜ、ヒロシマがMLの発信源にならなければならぬか。ポスト紙の報道は一月八日付であり、地元紙の報道は九月付だから、多くの平和活動家はポスト紙の報道を私より先に読んでいた。「アポリジョン二〇〇〇」に投稿した人はいなかった。ジョウもジャキーも熱心な核兵器廃絶論者で、私などより核兵器問題に関

する知識も豊富だ。核兵器廃絶運動の中心人物で、広島で開催された昨年の原水禁世大会の国際会議にも参加した。

*

実は、核実験に関しては欧米諸国よりは日本の方が、東京・大阪などよりは被爆地である広島・長崎の方が敏感に反応するという事情があるようだ。だから、主要全国紙に比べ地元紙の扱いは大きい。米国人留学生に聞いてみた。「〇一・九・十一」と「四五・八・六」「八・九」のどちらを五〇年後の人々は覚えていたのだろうか、と。二人の米青年は答えた。「二つの高層ビルの倒壊に伴う数千人の死と、二つの都市の消滅。ラス数十万人の死では比較になりません」。戦時とはいえ、原爆は究極のテロだった。

二〇世紀最後の十年間は核実験の回数が四〇回と少なかった。六〇年代の七〇六回、七〇年代の五五〇回、八〇年代の四三九回と比べれば今昔の感がある。しかも、九七年以降は地下核実験回数はゼロ、爆発を伴う一切の核実験を禁止した包括的核実験禁止条約(CTBT)の締結が威力を発揮し

た。残念ながら、九七年の印パの地下核実験と米ロの臨界前核実験は別だ。

*

米国の地下核実験は何としても阻止しなければならない。冷戦時代への退行は愚の骨頂だ。しかし、巨大軍需産業と癒着したブッシュ政権の軍核路線を転換させることは容易でない。核実験や戦争の欲望は飽くことを知らず、被爆者や戦争の被害者の苦しみに対して鈍感だ。京都議定書からの離脱など、ブッシュ政権の一国主義的世界政策はよく知られているが、CTBTやABM条約さえ反故にしようとするこの政権の我儘を放置しておくことはできない。

訪米して核実験禁止と核兵器廃絶を訴えようという計画がある。被爆者や被爆地市民の訴えが一定の成果をあげるだろうことは間違いない。マーティン・シャウウィンやカイ・バードのような著名人も被爆地からの支援を訴えている(中国新聞、一月十日)。良心的米国人を励まし、連帯することは被爆国日本の責務でもある。

(広島修道大学教授)

第五福竜丸が今あること

船に触れてみて……

堀田 てる子

暮に娘の家を訪ねると小学四年生の孫が一人で留守番を待っていました。

両親が仕事で留守の間、良くテレビゲーム(コンピュータゲーム)をやるといいます。私は初めてテレビゲームを見ました。

細長いクネクネした道を主人公が進んで行くと、地雷が炸裂し、羽の生えた天使になってひよろひよろと昇天するのです。そして、また生き返って地雷の道をゆき、何回も生き死にを繰り返すゲームでした。見ていてとてもショックでした。

子どもたちは、平和とほど遠い荒んだマスメディアによる異次元の世界の中に取り込まれているのです。

飽食の国日本では、「餓える」ということも知らず、アフガンの人々の痛みも、テレビゲームを見馴れた目には実感が湧かないのではないかと心配になりました。

昨年、第五福竜丸で平和を語る会に出演して下さった川崎の長森かおる先生も、テレビゲームのひどさを嘆いておられました。

三回撃ち殺さないで次ぎへ進めないとか、人の生死をマンガチックに捉えて「いのち」に鈍感にさせていることなど、家で絶えず親の考えをぶつけていないと、異常



平和を語るつどい2001年9月23日

なことが当たり前になってしまふ……と。

また或母親は、「友達が三人集まっても一緒に遊ぶわけがなし、それぞれがゲームを勝手にやっているだけ。ボタン一つですべてが思い通りになるから、人間関係でも思うようにならないと焦れて爆発する。」子どもがキレル遠因かも……と。

そこで休みの日には家族で出かけて自然の中で遊び、この日だけはゲームを休むといいます。

テレビゲームを見て、孫の世代との断絶を感じるのには私だけでしょうか……。

*

そんなとき、「福竜丸だより」(第二八三号)がとどきました。それには来館された小学生と引率の先生の感想文が載せられていました。

福竜丸が本物だと言われてびっくりした子。福竜丸に実さいにさわってみて、もうせんそうはなくそうと祈った子。

皆、核実験とか戦争はぜったいにやってはいけないと、ここに来て、船に触れてみて思ったので。 (きつと家ではテレビゲーム

もやっているでしょう。)

第五福竜丸が保存されて今ここに あることがどんなに大事か……。あらためて船の保存に力を盡くした人たちの願いと祈りが伝わってくるようです。

この第五福竜丸の保存運動をされた、元江東区の先生方がボランティアとして、今子どもたちに心をこめて説明して下さっていることは本当に貴重なことです。

いま戦争体験のある私達世代が、若ものや子どもたちと語り合い交流する場が切に欲しいと思います。展示館が日常的な交流の場となれますよう、良い企画を切に望んでおります。

(第五福竜丸平和協会評議員、9・23平和を語るつどい世話人)

2002年3・1ピキニ 記念のつどい

- * 2002年3月9日(土)14時-17時
- * 場所 日本青年館302号室
- * 講演 山本義彦氏(静岡大学教授 / 焼津市史副編集委員長)
- * 演題 ピキニ事件と日本の経済(仮題)
- * 参加費 500円